

用を見て直ちに投薬中止する要なきも、急性蕁麻疹及び浮腫性皮膚變化、急性貧血等發生せば直ちに投薬を中止する事。藥物を稀釋し或は排泄を迅速ならしむる爲に水分の強制多量補給、例へば生理的食鹽水、リンゲル、葡萄糖液を多量に注射する事。遊離「ヘモグロビン」の排泄を容易ならしむる爲に尿を適性に保持せしむる事。血液「ヘモグロビン」指數が60%以下に下降せる場合には輸血を行ふ事。其他對症療法(例へば肝炎の時には脂肪分少く糖質分多き食餌を與へる。又貧血には鐵劑投與の事)を行ふ。

第5章 結 論

1) 余等は滿4年間、岡山醫科大學皮膚科泌尿器科及び石の小院を訪れたる56例(大部分急性淋疾)に就き「トリアノン」1日3.0g連續服用後の副作用を観察せり。

2) 副作用は23例(41%)見られ、最多數は胃腸障碍22例(39.3%)なり。皮疹は8例(14.3%)、頭痛は6例(10.7%)、發熱は5例(9%)、倦怠は4例(7%)、血尿は2例(3.6%)、減尿及び無尿2例(3.6%)、腎疝痛、全身浮腫、「トリアノン結晶」、神經痛、膀胱緊張

感各1例あり。

3) 諸家の調査せし場合より皮疹特に多きが如し(微蕁疹兼癢痒性扁平疹兼點狀出血)1例、瀰蔓性發赤(猩紅熱様)1例、紅斑2例、麻疹様發疹2例)。2例に試験的再投與(「トリアノン」1.0g)したる所、1例は1.5時間、1例は5時間を経て同様な副作用(皮疹、發熱等)再發せり。然れども「トリアノン」の再投與により再發せざる副作用(輕度の胃腸障碍、頭痛)もあり(4例)。發熱は諸家の擧ぐる Sulfanilamid 投與の場合と略同率なり。而して各種の副作用は Sulfanilamid の失れより早期に發現するものの如し。

4) 尙ほ各種の副作用の發生は個體の體格並びに榮養の良否に關係なく、體質、服用藥量服用時刻、生活様式等に關係するものの如し。副作用發生と淋菌消失との間には一定の關係を認め難し。

5) 尙ほ治療効果の大にして、副作用も亦多き本劑の服用上の注意(副作用防止)と副作用に對する加療につき一考察を試みたり。

摺筆するに當り終始不一方御懇篤なる御指導と御校閱を賜りたる思師根岸教授に衷心より謝意を捧ぐ

主 要 文 献

1) 土屋、佐藤：臨牀の皮膚泌尿と其の境域、第4卷。 2) 文部省化學局。「ズルフアニールアミ

F、化合物の實驗と臨牀 3) 石、大村：岡醫誌(第1編)

2.3 村落に於ける戦後の寄生虫蔓延状況について

岡山醫科大學細菌學教室

教 授	故 鈴	木	稔
講 師	木	下 武	男
助 手	稻	臣 成	一
助 手	俵	壽 太	郎

(昭和23年6月20日 第58回岡山醫學會發表)

I. 緒 言

戦後我が國に於ける生活程度の低下と衛生

思想の衰微とは相俟つて公衆衛生上の諸問題に大いなる陰翳を投じて居る。殊に寄生虫の

村落名		香川縣三豊郡一谷村						岡山縣上道郡							
		昭和22年10月						昭和6年8月							
調査年次	性別	男		女		計		男		女		計			
		人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%		
保有率	検査人員	504		345		849		636		633		1269		1055	
	有卵人員	399		281		680		600		595		1195		913	
	有卵人員の検査人員に対する百分率	79.16%		81.43%		80.09%		94.34%		94.00%		94.17%		86.54%	
種類及性別	人員及% 寄生虫卵種類	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%
	蛔虫	314	62.30	227	65.79	541	63.83	318	50.00	333	52.61	651	51.30	285	27.01
	鞭虫	135	26.78	93	26.95	228	26.86	414	65.09	413	65.24	827	65.17	157	14.88
	十二指腸虫	85	16.86	50	14.49	135	15.90	218	34.28	186	29.38	404	31.84	154	14.59
	蟻	6	1.19	4	1.15	10	1.17	3	0.47	3	0.47	6	0.47	7	0.66
	東洋毛様線虫	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.16	1	0.08	0	0
	肝臓ダストマ	0	0	0	0	0	0	457	71.86	426	67.30	883	69.58	284	26.91
	横川吸虫	0	0	0	0	0	0	8	1.26	5	0.79	13	1.02	1	0.09
	高橋吸虫	2	0.39	0	0	2	0.23	30	4.72	13	2.05	43	3.39	10	0.94
	大卵型高橋吸虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0.56
	異形異形吸虫	0	0	1	0.28	1	0.11	0	0	0	0	0	0	0	0
	ステラントカスムス	0	0	0	0	0	0	1	0.16	0	0	1	0.08	4	0.37
	ビギディオブシス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.28
	デイクロケエリム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	肺臓ダストマ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.16	1	0.08	0	0
	無鉤條虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.09
縮小膜様條虫	1	0.19	1	0.28	2	0.23	0	0	0	0	0	0	1	0.09	
矮小膜様條虫	0	0	1	0.28	1	0.11	0	0	0	0	0	0	0	0	
チログリフス	3	0.59	5	1.44	8	0.94	4	0.63	5	0.79	9	0.71	0	0	
不明卵	0	0	0	0	0	0	1	0.16	5	0.79	6	0.47	0	0	
單獨及重複感染	單獨感染	271	53.76	192	55.65	463	54.53					226	17.81		
	二重感染	109	21.62	77	22.31	186	21.90					456	35.93		
	三重感染	19	3.76	12	3.47	31	3.65					360	28.37		
	四重感染	0	0	0	0	0	0					139	10.95		
	五重感染	0	0	0	0	0	0					13	1.02		
	六重感染	0	0	0	0	0	0					1	0.08		

2, 3 村落に於ける戦後の寄生虫蔓延状況について

光政村						岡山縣上道郡津田村											
昭和 22 年 8 月						昭和 6 年 7 月						昭和 23 年 5 月					
男		女		計		男		女		計		男		女		計	
594		631		1225		664		693		1357		422		446		868	
499		487		986		635		648		1273		325		356		681	
84.00%		77.17%		80.48%		94.13%		93.51%		93.81%		77.01%		79.82%		78.45%	
人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%
276	46.46	284	45.00	560	45.71	395	59.49	426	61.47	821	60.50	253	59.95	289	64.79	542	62.44
158	26.59	144	22.82	306	24.65	500	75.30	502	72.44	1002	73.84	97	22.98	106	23.76	203	23.38
156	26.26	160	25.35	316	25.79	205	30.87	210	30.30	415	30.58	56	13.27	53	11.88	109	12.55
0	0	1	0.15	1	0.08	8	1.20	6	0.87	14	1.03	2	0.47	2	0.44	4	0.46
0	0	0	0	0	0	1	0.15	1	0.14	2	0.15	0	0	0	0	0	0
176	29.62	142	22.50	318	25.95	353	53.16	335	48.34	688	50.70	38	9.00	37	8.29	75	8.64
0	0	0	0	0	0	10	1.51	11	1.59	21	1.55	0	0	0	0	0	0
2	0.33	4	0.63	6	0.48	24	3.61	16	2.31	40	2.95	1	0.23	1	0.22	2	0.23
1	0.16	2	0.31	3	0.24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0.16	1	0.15	2	0.16	0	0	0	0	0	0	1	0.23	0	0	1	0.11
0	0	0	0	0	0	1	0.15	2	0.29	3	0.22	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	1	0.15	2	0.29	3	0.22	0	0	0	0	0	0
1	0.16	0	0	1	0.08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	1	0.15	1	0.14	2	0.15	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	3.36	14	2.21	34	2.77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0
0	0	0	0	0	0	2	0.30	5	0.72	7	0.51	0	0	0	0	0	0
285	47.97	281	44.53	566	46.20					243	17.91	225	53.31	245	54.93	470	54.14
150	25.25	158	25.03	308	25.14					481	35.45	82	19.43	94	21.07	176	20.27
53	8.92	37	5.86	90	7.34					395	29.11	13	3.08	13	2.91	26	2.99
10	1.68	10	1.58	20	1.63					140	10.32	5	1.18	4	0.89	9	1.03
1	0.16	1	0.15	2	0.16					13	0.96	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0					1	0.07	0	0	0	0	0	0

蔓延は甚だしく看過する事が出来ない。我々は學術研究會議風土病特別委員會の協同研究の一部として備前地区並びに四國地区の調査を擔當し昭和 22 年 8 月より 23 年 5 月に跨つて香川県三豊郡一谷村, 岡山縣上道郡光政村及び津田村の 3 村住民の糞便に就て寄生虫検査を實施した。

II. 検査方法

検査は總て矢尾板氏法を應用し其の全沈渣内容を餘す所なく鏡檢した。尙昭和 6 年及び昭和 16 年に行つた調査も總て同様である。

III. 検査成績

今回の調査では一谷村 849 名, 光政村 1225 名, 津田村 868 名, 計 2942 名につき検査したとその検査成績は別表に示す如くである。

IV. 考察

今回の成績と光政村, 津田村に於て當細菌學教室が昭和 6 年に検査した成績及び大阪醫專が昭和 16 年に検査した光政村の成績とを比較すると概して次の如く考へられる。

1. 豫想に反し斯る農村では一般に昭和 6 年, 昭和 16 年及び現在のそれと比較すると虫卵保有率が段々と減少して居る。

2. 今回の検査で得られた新発見としてはイ. 光政, 津田兩村に於ては昭和 6 年頃は衛生状態のパロメーターと見做されて居た鞭虫の寄生率が他の寄生虫のそれより

高かつたが, 現在では蛔虫の保有率が一番高く鞭虫は蛔虫の半分或はそれ以下に減少を示して居る事。

ロ. 昭和 6 年頃には肝臟ジストマが非常に多く見られたが, 現在では幸ひにも 1/3 乃至それ以下に減少して居る事である。此肝臟ジストマに就ては同地方に於て第一中間宿主たるマメダニが年々減少の傾向にある事が一つの原因と考へられ, 此點に關しては目下種々調査研究して居るので近く報告したい。

3. 寄生虫の保有率と年齢との相關關係については先人の業績に一致して居るが, 農村に於ては乳幼児に於ても寄生虫が可成の頻度で檢出される。

4. 性別による保有率の差は全くない。

5. 唯一種の寄生虫による單獨感染は昭和 6 年頃には少なかつたが, 現在では保有者の約半数が單獨感染である事は注目すべき事である。

6. 寄生虫の重複感染では重複の度の多くなる程その頻度が少なく, その何れの組合せに於ても蛔虫, 鞭虫, 十二指腸虫の何れか或はその全部が入つて居り, 今回の検査では 5 重感染が一番重複度の高いものであつた。昭和 6 年には 6 重感染迄觀られて居る。

本調査は學術研究會議よりの研究費により行はれたるもので厚く謝意を表す。尙本調査に種々便宜を與へられた岡山, 香川兩縣衛生部長及び各村役場の諸氏に感謝す。

人工氣胸療法の統計的觀察

(第 2 報)

人工氣胸療法の合併症並に偶發症

国立岡山病院(院長日下連博士)

醫學士 齋藤 勉

第 1 章 緒 言

第 1 報に於て人工氣胸療法の効果に就て統

計的觀察を試みたが茲に第 2 報として該療法中に於ける合併症並に偶發症に就き報告す